

ライオンズの歴史と活動について

ライオンズクラブは1917年6月にアメリカ・シカゴの青年メルビン・ジョーンズの提唱により誕生し、2年後には100周年を迎えます。日本では1952年3月にフィリピン・マニラライオンズクラブのスポンサーにより東京ライオンズクラブが出来たのが始まりです。LIONSはそのスローガンであるLiberty, Intelligence, Our Nation's Safety（自由を守り、知性を重んじ、われわれの国の安全を図る）の頭文字から取った名前、モットーはWe serve（我々は奉仕する）、そしてライオンズの誓い「われわれは知性を高め、友愛と相互理解の精神を養い、平和と自由を守り、社会奉仕に精進する」に従って活動しています。その精神は世界中の人々の共感を呼び、現在では世界210の国に、46,863のクラブがあり、会員数は1,408,492人と言う世界最大の奉仕団体となりました。よく同じ社会奉仕活動をしているロータリークラブと比較されますが、ロータリーが職域や個人で活動をしているのに対して、ライオンズでは異業種の個人のチームワークを発揮して行うことにより有意義な効果をあげるように組織された団体で、基本は金銭アクトよりも労力アクトに重きを置いています。日本では8つの複合地区、35の地区に分かれ、3,161のクラブがあり、124,672人の会員がいます。当蒲郡マリンライオンズクラブは334 - A地区（愛知県）の2R（東三河）の2Zに属していて、蒲郡ライオンズクラブのスポンサーにより、1989年（平成元年）5月7日に誕生しました。1993年には海と山の交流を図る目的で、飯田赤石ライオンズクラブと姉妹提携を結び、毎年潮干狩り、マングン漁、リンゴ狩などで交流を続けています。

ライオンズクラブの活動は広範に渡りますが、現在力を入れているものとして、高齢者福祉対策、障害者対策、献血・献腎・献眼・骨髄移植推進、聴覚障害者対策、青少年育成（ライオンズクエスト事業など）、薬物乱用防止対策、環境保護対策、社会福祉対策、国際協調、YCE（Youth Camps and Exchange 青少年海外派遣及び受け入れ）などがあります。またLCIF（Lions Clubs International Foundation）と言うライオンズクラブ国際協会が作るライオンズクラブ国際財団への個人的な献金を通じて、視力保護、青少年育成、災害援助、人道奉仕などに貢献しています。クラブの活動については、そのクラブの裁量権が大きく認められており、毎年交代する会長・幹事・会計の三役と一年理事・二年理事で構成する理事会で方針を決定します。また、活動の立案・実施をするのに6つの運営委員会（GMT・GLT委員会、計画委員会（姉妹提携含む）、出席・大会委員会、財務・会則・附則委員会、PR・IT委員会、FWT委員会）と5つの事業委員会（社会福祉・環境委員会、五献推進委員会、青少年指導・薬物乱用防止委員会、LCIF・YCE委員会、花畑特別委員会）があります。会員・家族の親睦を図るのもクラブの維持に重要であり、3つの趣味部会（ゴルフ、放談、釣り）があり、家族同伴の企画（クリスマス家族会、夏季家族旅行など）も実施しています。会員には正会員以外に、終身会員、優待会員、家族会員があり、正会員の一番の義務は月に2回の例会に出席することで、やむを得ない理由で出席できない時には別のクラブの催しに参加してメーキャップをします。次年度の国際会長となられたL山田實紘の呼びかけで、家族会員も増えており、現在当クラブには9名の家族会員がいます。

（PR委員長 竹内元一）